

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100618		
法人名	社会福祉法人 広和会		
事業所名	グループホームほのぼの青葉	ユニット名	貳番館
所在地	宮崎駅東3丁目9番10号		
自己評価作成日	平成30年8月1日	評価結果市町村受理日	平成30年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4590100618-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成30年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宮崎駅近くに施設があり交通の便が良い。施設内はバリアフリーで各居室も広く、ゆったりと出来る空間となっている。また、4階に施設がある為日当たりがよく天気の良い時は屋内運動場を散歩したりして過ごしている。館内も広く、いろいろなイベントが行われ楽しい時間を過ごす事ができる。施設がある建物には、介護老人福祉施設やデイサービス等があり、協力体制がとれている。また、敷地内にはのざきクリニックが開院しており、内科、整形外科がスムーズに受診でき、利用者、家族も安心できる環境にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは母体の社会福祉法人が市の中心地に所有するビルの4階にあり、同じビル内にある介護老人福祉施設を含めた関連施設と連携して運営している。隣接して内科・整形外科の医療機関があり、受診や急変時の対応についても連携しており、利用者も家族も安心して生活できる環境となっている。また、自治会が主催する各種行事への参加やビルの1階にある地域交流センターで介護教室を開催する等、地域との交流を行っている。当地域は海岸に近いことから、津波等災害時の避難場所として市と福祉避難場所の締結をしており、行政や地域住民と信頼関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を施設内に掲示している。以前は朝礼で理念の唱和を行う事で職員は意識の確認が出来ていたが現在は行っていないので意識の確認が行えていない。	理念を事務室に掲示し、朝礼で唱和をして意識を共有して日々のケアの向上に取り組んでいたが、現在は朝礼での唱和や職員会議での意識の確認等は行っていない。	法人全体の理念とは別にホーム独自の理念を全員で話し合い作成して、理念を見やすいところに掲示し、職員会議やミーティングで共有して、サービス向上につなげることを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、管理者を中心に地域の方との交流を行っている。	自治会が主催する夕涼み会への参加や同じ建物の1階にある地域交流センターで地域住民向けの介護教室を開催する等、地域との交流に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人建物内に地域交流センターを設けており、地域の方々の利用が可能になっている。地域の方々の受け入れを行い理解を深めている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。その中で、事業所の取り組みや活動に対して助言等を頂いている。	会議ではホームから運営状況の報告や年間行事の計画等について報告があり、メンバーからは自治会が主催するイベントの情報について発言があるなど、出された意見や助言を運営に反映させるよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告等について連携を図っている。災害時の非難場所として、宮崎市と福祉避難場所の締結を行っている。	海岸が近いことから、津波等災害時の避難場所として市と福祉避難場所の締結をして協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束委員会を設置し研修等を行っている。また、ユニット内では出来るだけ施錠せずに過ごして頂いている。	法人内の身体拘束委員会が中心となって、研修や勉強会を定期的で開催している。職員は身体拘束の弊害について学び理解を深め、身体拘束のないケアに全員で取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、事例を用いて虐待防止に関しての学ぶ機会を設けている。			

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を学ぶ機会が少ない。現在、利用者で後見人や保佐人が付いている方が居るが具体的にどういう役割をしているのか理解できていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項、契約書、運営規定の説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議で本人、家族の意向を確認している。また、エレベーター前に意見箱を設置している。	家族の来訪時やイベント等の開催日に本人を含めて話し合う場を設けている。また、運営推進会議に家族の代表が参加して意見や要望を表せる機会を設け、運営に反映させるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで運営状況を伝え職員の方からも業務改善等の提案や意見交換が行えている。	職員会議やミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。会議では勤務時間体制の改善等の意見が出され、運営に反映させるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ、個人の目標を設定し面談等を行い評価している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度計画で個人のスキルに応じた外部研修を受講したり、定期的開催される内部研修に参加したりしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会や会議等に参加して交流の機会を作っている。			

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者会議で本人の意向を伺い、本人が望んだ生活が行えるように支援している。また、初期の段階では不安や混乱も多く見られるのでコミュニケーションを図りながら関係を作っていく。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者会議で家族の意向を伺う。利用者同様家族も不安があるので、報告・連絡・相談を密に行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族がその時に必要とされる支援が何かを職員で話し合い「その時」に必要な支援を提供している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との関係作りを大切にし、本人の出来ること・出来ない事を把握し残存機能を活かしながら支援している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしなが、共に本人を支えていく関係を築いている	日常でも家族が施設に来られ本人と過ごせる時間を作っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に利用者の家族や親戚、友人が来られ時間を過ごされている。外出の機会は少ないが家族が時々、馴染の店や飲食店に連れて行っている。	喫茶室があり、家族や友人、知人がいつでも気軽に来訪し、利用してもらえるよう雰囲気づくりに努めている。また、家族の協力を得て馴染みの店での買物や外食等の支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性を把握し、ホールでの席の配置を変えたりしている。			

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個人情報管理の上で、入院時や入所時には本人の生活や経過を引き継ぎフォローしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安全に配慮した上で、自分の居室に馴染みの物を持ち込んだり居室のレイアウトを行っている。また、職員全員で本人に関する情報収集を行っている。	日々の暮らしの中で、利用者の言動や表情から思いや意向の把握に努めている。また、家族や関係者からの情報を収集して参考にしよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの本人の暮らしを把握し、本人が過ごしやすい環境や役割を考え本人の力を活かしながらケアを提供している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のADLの把握は勿論、出来る事や分かる事等の残存機能の把握を居室担当の職員を中心に行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当が評価し、情報を元にユニットリーダーが介護計画短期目標の総括評価を行いケアマネージャーと意見交換している。	本人や家族、関係者と充分話し合い、意向や希望を取り入れ、職員の意見や気づきを反映した介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、必要に応じて介護計画の見直しを行うよう取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた記録の実践を行っている。また、変化があった事などを記録に残している。記録はパソコンで管理されている為職員が把握し易い環境である。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状態や状況に合わせて他の介護保険のサービスや社会資源も提案させて頂く。			

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出支援時には近くのお店に行き飲食したり、晴れた日などは施設周辺を散歩したりしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内にのぎきクリニックが併設しており、病院受診や内服の相談ができ、家族にも安心して頂いている。他院に受診する際には情報提供を行ったり必要であればケアマネが同行し情報提供を行っている。	本人や家族が希望する医療機関で受診できるよう支援している。ほとんどの利用者が協力医療機関である隣接するクリニックをかかりつけ医としており、受診や急変時の対応等について連携している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良の様子が見られたら看護師へ報告し、早めの対処が出来る。夜間はオンコール体制の協力を得ている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供している。入院中は退院に向けての面談に参加し退院に向けての情報の共有に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調不良者に関しては看護師に相談するとともに必要であれば、かかりつけ医と連絡をとり状態報告を行う。急変時の対応の確認も行い、対処できるようにしている。	看取りについては取り組んでいるが、指針の作成や医師や職員、関係者間の連携等、体制面でまだ十分とは言えない。	看取りについての指針を作成し、本人や家族に充分説明の上医師や職員、関係者が方針を共有して支援に取り組むことを期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成しており、発生時にはマニュアルを元に対応している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で実施する災害訓練、非難訓練に参加し各職員がその場に遭遇した時の事を想定し訓練に臨んでいる。又運営推進員を中心に訓練に参加して頂く様に連携している	火災や地震について日中や夜間を想定した避難訓練を同じ建物内にある他の施設と合同で消防署の協力の下、年2回実施している。運営推進会議のメンバーにも訓練に参加してもらえるよう協力を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を内部研修で行い、言葉使い等に配慮しながら利用者として接している。ケアを行う場面ではプライバシーに配慮しながらケアを行っている。	接遇研修を定期的実施し、職員は利用者の人格を尊重した言葉かけやプライバシーの確保に理解を深めている。特にトイレへの誘導や入浴時の対応には細心の配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアを行う前には説明・同意を得てケアを行っている。その中で、本人が意思表示がしやすい声掛けの工夫を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが、本人がその時にその時に「〇〇がしたい」という事には沿いながらケアを行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服が選べるようにしたり、髪を整えたりと身だしなみが整えるように支援している。また利用者の中には行きつけの美容室に家族が連れて行っている方もいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の調子をみながら、一緒に盛り付けをしたり片付けを行ったりしている。また、季節感のあるメニューや行事食を提供して楽しめるようにしている。	管理栄養士がメニューを作成し、カロリーの計算を行ったバランスのとれた食事が提供されている。また、年1回嗜好調査を行い、食事が楽しみなものになるよう工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は管理栄養士による献立を提供している為カロリー計算等を行っている。また、特別食や嚥下困難な方に対するソフト食など対応している。食事量、水分量も毎日把握し記録に残している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施と居宅療養管理指導にて歯科医、歯科衛生士による口腔ケアの助言・指導が行われている。			

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレでの排泄が行えるように、衣服の着脱、尿意の有無や場所が把握できるか等を分析し定時での誘導声掛けを行っている。	排せつチェック表を活用し、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し出来るだけトイレで排せつできるよう自立に向けて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量のチェックを行っている。また、服薬でのコントロールも個別に対応している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっているが、一人ひとり入って頂き本人のペースで入浴出来ている。また、体調等を考慮し入浴できない時は清拭で対応したりしている。	入浴は基本的には週3回としているが、希望があればいつでも入浴できるよう柔軟に支援している。入浴を拒む人には、入浴日を変更したり、タイミングよく声掛けする等工夫をして支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠が強い場合は無理に起こさず、臥床して頂き休んでもらっている。また、本人の訴えがあった時にも昼夜逆転に配慮しながら休んでもらっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居室担当者を中心に薬の把握を行っている。また、薬に関して不明な点は看護師に相談しながら服薬支援を行なっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の役割が持ってもらえるようにホールで出来る作業等を行っている。また、定期的な行事を行い楽しい時間が過ごせるように支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の行きたい場所には支援が出来ないが、施設周辺を散歩したり外出行事を行い外に出られる機会を作っている。	家族の協力を得て、ホーム周辺を散歩したり、外食をするなど出来るだけ戸外に出かけられるよう支援している。また、法人全体で年間計画を立て外出できるイベントを企画し、定期的実施するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に家族の方が金銭管理を行っている。必要時には家族に連絡を取り用意してもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いの手紙を書いて送っている。また、本人が連絡が取りたいという時には電話をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内温度を管理したり、光の調節等を行っている。また、トイレや居室等は分かりやすいように張り紙表示を行っている。	採光や室温、換気等、利用者が快適に生活できるよう配慮している。リビングには季節感のある作品や花が飾られ、利用者がゆったりと居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間での一人になれる場所はないが、ホールの周りに各居室があるので一人になりたい時等はすぐに居室に行く事ができる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みの物を置いたりしている。また、安全に配慮しつつ家族の要望等も取り入れ本人が過ごしやすい環境を作っている。	家族と相談しながら、利用者の希望や個性を生かした部屋づくりを支援している。使いなれたソファや椅子、テレビ等が持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、床のバリアフリー、場所が分かりやすいように張り紙をしたりしている。			